

みやもとだより

第12号 平成27年12月発行

季節のおまつり

遠山の霜月祭

鎮魂の儀式と
いうことも後
から加わって
いる。

和田の諏訪

神社では、社
殿の入口に近
い三十畳ほど
の舞殿の中央
に炉が切って
あり、薪を燃
やし大釜に一
晩中湯を沸き
たぎらせ、神々をお迎えして湯を献上する。

湯釜の上には願いを叶える数を切った紙の
「湯の上飾り」がつけられ、太鼓と鈴の囀し
に合わせ湯釜を回りながら神楽歌や舞いの湯
立が続く。夜更けて水の王、火の王、遠山一
族・村内の神、神大夫、猿など四十ほどの面
をつけた神々が次々と現れて湯を振りかけ、
参列者はその湯をあびることによって魂の再
生をはかる。徹底して湯立にこだわるのが遠
山霜月神楽の特徴である。

南アルプスに抱かれた信州遠山郷（長野県
飯田市）は秘境の里とも云われ、東京から高
速バスで飯田へ、そこから朝晩二便しかない
バスで山深い峠を越え約六時間かかって着く。
ここには鎌倉時代に宮廷で行われていた祭事
を模した湯立の神楽がほぼ原形に近いかたち
で伝承されている。

遠山郷にある上村、南信濃地区の九つの神
社で繰り広げられるこの祭りは、旧暦霜月
(十一月、別名神楽月)に行われる。一年の
うちで一番太陽の力が衰弱し、生あるものの
活力も弱まるのが冬至であるが、太陽が冬至
を超えて再生することになぞらえて、神や人
や自然の「生まれ清まり」を願い、神々を招
いて深夜まで神楽が奉納される。

霜月祭は伊勢神宮の内外の湯立の系統をひ
くもので、文化は中央から地方、奥地へと伝
わることを考えると伊勢から三河、天竜川沿
いの村々に伝わってきたものと思う。遠山郷
は江戸時代、ここを領有していた遠山一族が
百姓一揆によつて滅亡し、その怨靈を慰める



火の王の舞



和田諏訪神社の下堂祓い 扇剣の舞

この国の佳き伝統とともに
宮本卯之助

成田山新勝寺の大太鼓



私も一緒に木場へ行き検分した。納期も短く乾燥もままならず、今戸倉庫で胴を削り上げ、その上から麻で布着せし、栗色ないし小豆色のうるみ漆で塗り固めた。また檻のようなはつきりとした木目がないので、それらしく描き入れるなど工夫を凝らした。太鼓の皮は牡牛の特大のものを用い大勢で張り上げ無事お納めした。吉野様は不動産事業で成功したのも成田山のお蔭と、この太鼓は「出世太鼓」と命名された。

(文 宮本卯之助)

一九六八年（昭和四十三年）成田山新勝寺の大本堂の落慶に合わせ、ご信者であつた東京都府中市の吉野様という方から、日本

第一の大太鼓（口径六尺一・八メートル）を作つてほしいとのお話が舞い込んだ。当時、五代目卯之助、六代目卯之助と宮本孝太郎常務は日本にはそのような大木はなく、深

江戸型人形山車修復

二〇一五年十月十日、修復を終えた関羽人形山車が佐倉まつりで巡行いたしました。

江戸型山車と呼ばれるものの一つで、小田巻によつて上層階が上げ下げできる構造になつています。最上階に飾られる堂々たる人形も見所です。一八七九年（明治十二年）、佐倉市の中町町内会の所有となつて以来、城下町に相応しい威風をもつて曳き続けられてきました。鎌金具の鍛金修復の際には、元の金具に近いものを作り、見栄えや質感が変わらないよう心掛けました。一見分からぬようないふ部分にも気を配るのが、修復を手掛けるもの責務だと感じます。

本年はあいにくの天候により、江戸型人

祭りとともに



形山車の巡行は途中で中止となりましたが、また来年、その姿を見られるのを楽しみにしています。

お座敷おどり



浅草寺の裏手にある、枝垂れ柳が続く並木道。柳通りとよばれるこの界隈は、江戸時代から栄えてきた浅草花柳界が息づく街です。装い豊かな浅草芸者衆が老舗料亭へ向かう様は、他とは違つた趣が感じられます。芸者衆を迎えたお座敷では、賑やかな遊興の中で、三昧線や唄、鳴り物（太鼓や鼓）、流れるようないふりが披露されます。敷居の高さを感じるかもしませんが、秋にはお座敷おどりが浅草文化観光センターで一般公開されたり、正月には新春浅草歌舞伎の総見がみられたりと、様々な催しが披かれています。浅草らしい氣風の良さで、多くの方が目にする機会が増えてい

発行	株式会社宮本卯之助商店
企画広報室	〒一一一〇〇三五 東京都台東区西浅草二一一一 電話〇三一三八四四一二二四一 www.miyanoto-unosuke.co.jp
代表取締役社長	宮本芳彦